

## 136 「不正な管理人」のたとえ

ルカによる福音書 16 : 1~13

01 イエスは、弟子たちにも次のように言われた。

「ある金持ちに一人の管理人がいた。この男が主人の財産を無駄遣いしていると、告げ口をする者があつた (→新改訳：訴えが出された)。

02 そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『お前について聞いていることがあるが、どうなのか (→新改訳：何ということをしてくれたのだ)。会計の報告を出しなさい。もう管理を任せておくわけにはいかない。』

→資産は主人のものであり、管理人はその運用を任されているだけである。会計報帳簿を出すようにとあることから、ここでは、主人は管理人のことを不正直というよりも仕事に無責任だと捉えている。

03 管理人は考えた。『どうしようか。主人はわたしから管理の仕事を取り上げようとしている。(奴隷のように) 土を掘る力もないし、物乞いをするのも (不名誉なこと) 恥ずかしい。

04 そうだ。こうしよう。管理の仕事をやめさせられても、(相手に貸しを作っておけば) 自分を家に迎えてくれるような者たちを作ればいいのだ。』

05 そこで、管理人は主人に借りのある者 (→小作農) を一人一人呼んで、まず最初の人に、『わたしの主人にいくら借りがあるのか』と言った。

06 『(オリーブ) 油百バトス』と言うと、管理人は言った。『これがあなたの証文だ。急いで、腰を掛けて、五十バトスと書き直しなさい (→相手にやらせ、管理人自身は自分の手を染めていない。しかも物ではなく、書面上の変更なので、発覚する可能性も低い)。』

→バトス (バト：旧約聖書)：液体の容量で約 230 = 1 コル × 1/10 ←バト (娘)：一人の少女が運べる水の量。→50 バトス × 約 230 / バトス ≒ 11500

→管理人は、負債を減らしてやり、貸しを作っておけば、将来自分を雇ってくれるだろうと考えた。

07 また別の人には、『あなたは、いくら借りがあるのか』と言った。『小麦百コロス』と言うと、管理人は言った。『これがあなたの証文だ。八十コロスと書き直しなさい (→相手にやらせ、管理人自身は自分の手を染めていない。しかも書面上の変更なので、発覚する可能性も低い)。』

→コロス (コル：旧約聖書)：コロスは個体、コルは液体の容量で約 2300 → 1 コロスは 1 エーカー (1 ac = 4,046.8564224 m<sup>2</sup>) の収穫量

④ある見解によると、6 節の免除分 50 バトスと 7 節の免除分 20 コロスとはほぼ同額で、約 500 万円相当である。

→管理人は、負債を減らしてやり、貸しを作っておけば、将来自分を雇ってくれるだろうと考えた。

08 主人は、この不正な管理人の (自分の将来を見据えた) 抜け目のないやり方をほめた。

→④決して、不正をほめたのではない。

この世の子らは、自分の仲間に対して、光の子らよりも賢くふるまっている。

→この世の子らは、神に従わず、神の目的に反する。新約聖書のいくつかの箇所では「この世」は、しばしば悪として、また神の敵として描かれている (ローマ 12 : 2、ガラテヤ 4 : 3、ヤコブ 1 : 27)。

光は、神の真理を明らかにする人々や物事を描くのに用いられる (イザヤ 49 : 6、ヨハネ 1 : 3~4)。

イエスに従う人は「光の子ら」(ヨハネ 12 : 36、エフェソ 5 : 8) と呼ばれる。

→ヨハネ 12 : 36、エフェソ 5 : 8、テサロニケ II 5 : 5

09 **そこで、わたしは言うておが、**

(悪・腐敗の根源としての)富、金

**不正にまみれた富** (→この世の富→NIV : worldly wealth/NKJV : unrighteous mammon) **で友達を作りなさい。**

**そうしておけば、金がなくなったとき** (→死んだ時→NIV : when it is gone/NKJV : when you fail)、(よく頑張りましたと) **あなたがたは永遠の住まいに迎え入れてもらえる。**

→ (リビング・バイブル) 不正の富を利用してでも、親しい友をつくりなさい。そうしておけば、富がなくなった時、親切にしてやった人たちが、永遠の天の住まいに迎え入れてくれるでしょう。

→ (回復訳) わたしはまたあなたがたに言う。不義のマモンによって、自分のために友人をつくりなさい (→神の導きに従って、金銭を用いて事を行ない、人を助けなさい)。そうすれば、それが役に立たなくなった時 (→サタン的なこの世が終わった後、神の王国ではマモンは無用になり)、彼らはあなたがたを、永遠の幕屋へ迎え入れてくれる。

→ (回復訳解説) マモン (アラム語、金銭) は、サタン的なこの世のものです。金銭はその位置と存在において不義です。たとえの中の家令 (管理人) は、不義な行動によって彼の賢明さを働かせました。主はわたしたち信者に、不義なマモンを使用する時には、わたしたちの賢明さを活用するように教えておられます。

→ お金 (マモン) が悪なのではなく、他人を欺いてお金を得ることをが悪である。金と富は友人を作るためや他人を救うために利用できる。キリスト者として、地上の富であるお金を使い伝道、献金一御国の拡大をしたなら、お金は使い果たしてしまうかもしれないが、神はもっと価値のあるもの、すなわち永遠の住まい (神との永遠の生活) を与えてくださる。

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 2 / 聖句等の総数 33250 (天に積み)2個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : 天に積み]
S マタイによる福音書	6:20 富は、天に積みなさい。そこでは、虫が食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込むことも盗み出すこともない。	
S ルカによる福音書	12:33 自分の持ち物売り払って施しなさい。擦り切れることのない財布を作り、尽きることのない富を天に積みなさい。そこは、盗人も近寄らず、虫も食い荒らさない。	

10 **ごく小さな事** (→地上の富=不正の富、神様のもの) **に忠実な者は、大きな事** (→永遠に価値のあるもの=霊的な財産、真の富) **にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である。**

→ (リビング・バイブル) 小さなことに忠実な人は、大きなことにも忠実です。小さなことに不忠実な人は、大きな責任を与えられても、忠実に果たすことはできません。

→ 小さい事に忠実な人に、大きい事が委ねられる。

11 **だから、不正にまみれた富について忠実でなければ、だれがあなたがたに本当に価値あるものを任せられるだろうか。**

→ (リビング・バイブル) この世の富も任せられない人に、どうして、天にあるほんとうの富を任せられることができるでしょう。

12 **また、他人のものについて忠実でなければ、だれがあなたがたのものを与えてくれるだろうか。**

→ (リビング・バイブル) 他人の富に忠実でなかったら、自分の富さえ任せてもらえないのです。

13 **どんな召し使いも二人の主人** (→①神、②富[マモン]) **に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」**

→ (リビング・バイブル) だれも、二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方に忠実であるか、あるいは、一方を重んじて他方は軽んじるようになるからです。神と富の両方に仕えることはできないのです。